



昔の常識、今の非常識

小児科医長 榊原 康久

昔は自分で病気について調べることが難しい時代でした。図書館で分かりやすい本に出会うまで探し続けた方も多いと思います。今はスマートフォンに向かって「〇〇 治療」と話だけでインターネットの検索結果が出て、クリックするだけでその病気と治療について知ることができるようになりました。「〇〇 ガイドライン」と調べて、その病気のガイドラインをみることであれば、最新の知識を得ることもできます。医療の世界はどの分野も日進月歩で、昔の常識が今の非常識になってしまつことが多くあります。



今回は私の専門分野である小児アレルギー！リウマチの病気を交えて、その一部を紹介いたします。

一つ目は、かぜです。私が研修医の頃、かぜには咳があれば咳止め、鼻水があれば鼻水止めをまとめて処方することが当たり前でした。しかし、かぜで咳止めは効果がない知見や、鼻水止めは熱性けいれんへの影響があることから、今は解熱剤以外に処方できる有効な薬は、痰切り、だけとなってしまいました。

二つ目は食物アレルギーです。血液検査で陽性だから、陽性の食品は全部除去しましょうと言われた方は多いと思います。しかし、除去食はすごく大変で、栄養も考えないといけません（ミルク除去ならカルシウム、たまたご除去ならタンパク質等）。最近では血液検査だけで判断せずに、実際に食べて無症状であれば除去はしません。少量で症状がなければ、安全に食べることを続けて制限解除を目指す食事指導が一般的となっています。

三つめは若年性特発性関節炎です。原因不明の関節炎が6週間以上続く病気で、昔は若

年性関節リウマチという病名でした。昔も今も難治の疾患になります。かつては正確な診断に至るまで非常に長い期間を要することも多くありましたが、今は病気の特徴についての解明が進んだおかげで、早期診断・早期治療のケースが多くなりました。そして、昔は治療薬による副作用の問題が常に取りました。現在は治療薬の進歩により副作用が少なく、無症状で長期維持が可能となっています。誰でも簡単に最新の情報を得られる現代は、情報過多の社会と言われています。最近ではワクチンを中心に誤っている情報も多々あります。子どもの病気のこと調べてみただけで、どちらが正解か分からない等の質問があれば、ぜひ小児科に相談してください。現時点での better or best を伝えることができると思います。

